

《新しい姿勢調節リハビリテーションの提案》 足での「立つ」、「歩く」という動作は、ヒトの行動の基盤です。いずれの動作も、特に注意を払うことなく、いわば自動的に実現することを常としていますが、歳をとったり、何らかの障害を負うと、身体機能の調和が損なわれる結果、バランス調節が困難となったり、円滑な歩行運動ができなくなるなどの問題が生じます。高齢化社会の中で人間が本来持っている歩く能力が低下し歩行障害を起こすことが多々あります。株式会社テック技販（代表取締役 額額和美）は国立リハビリテーションセンター研究所 河島則天 神経機能障害研究室長と共同研究開発（特許出願中）を行い、加齢や障害によるバランス低下を調整し、潜在能力を引き出す画期的なりハビリシステムの開発を行いました。正式な名称は「重心動揺リアルタイムフィードバックシステム」商品名BASYSです。



(W638×D708×H1811mm)

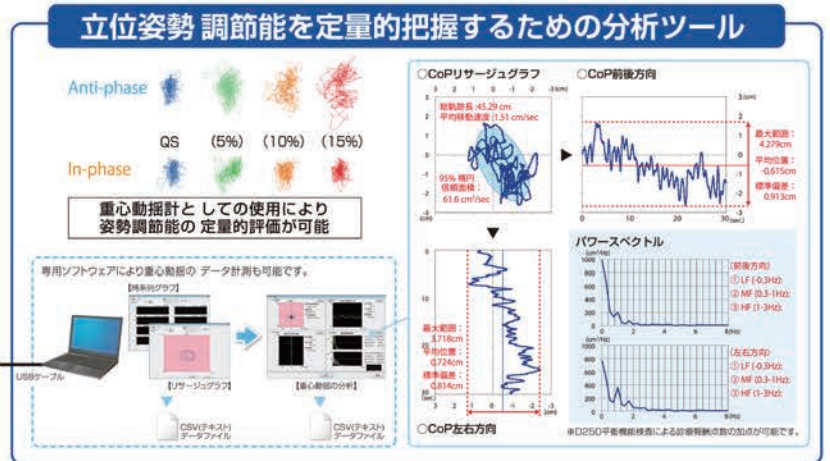
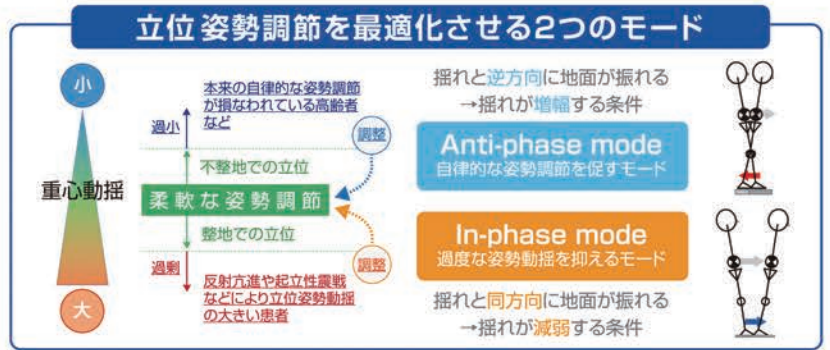


河島則天氏

ケアリングデイサービス管崎にて臨床データ採集研究・治験、実施中です。
責任者:元九州大学附属病院 リハビリテーション部 副部長 瀬占哲郎(ケアリング管崎支店にて勤務)

■共同開発者 河島則天氏 のプロフィール

2000年 金沢大学大学院教育学研究科修了、同年 国立身体障害者リハビリテーションセンター研究所技術員、02年 同研究所流動研究員、05年 芝浦工業大学先端工学研究機構助手、同年博士号取得。2006年より日本学術振興会海外特別研究員（～2007）、同特別研究員SPD（～2008）として、トロント大学およびトロントリハビリテーション研究所にて中枢神経疾患の神経リハビリの開発に関する研究に従事。2009年より国立障害者リハビリテーションセンター研究所客員教授、神経筋機能研究室長に着任し、現在に至る。



ケアリング推奨リハビリ機器

姿勢調整リハビリテーションマシン「BASYS」ベイス

高齢者、障害者の歩行時の中枢反射を引き出したり、逆に抑制することで歩行改善を行う**世界初の「リハビリ装置」**です。「BASYS」は、最新の神経学の研究と姿勢調整の運動学的な研究の結果、ヒトの立位時の「重心動揺」をフィードバックし、それを「しっかり立てる」ように、その場で「反射」を引き出す事で、立位時の姿勢を調整するリハビリ装置として世界で初めて開発されたマシンです。「パーキンソン病」「神経難病」「脳血管障害」「脊髄損傷」「リハビリに指示がわからず施術が困難な方」「老化により立つのが困難とされてきた方」もリハビリが可能なのです。ケアリングは、河島先生・テック技販（株）と共同研究を行い、日本で最初に介護施設導入設置いたしました。ケアリング デイサービスにて、ぜひ体験して下さい。<http://www.caring.jp/>